

特集

孤立・孤独

企画 本誌編集委員会

日本社会では、孤立・孤独* が静かに広がり、コロナ禍を経てその深刻さは増している。種々の研究からは、孤立・孤独が死亡率を上昇させ、認知症やうつ病のリスクを高めることが明らかになっている。英国では 2018 年に孤独担当大臣という専門ポストが設置され、本邦でも 2023 年に孤独・孤立対策推進法が成立するなど、いまや孤立・孤独は世界的な社会課題と言える。本特集は、孤立・孤独が私たちの心身や社会に与える影響を、社会科学、精神医学、神経科学の観点から紐解く試みである。孤立・孤独がなぜ深刻な問題なのか、そしてどのように対峙していくべきなのかを考えてみたい。

*文脈や研究者によって「(社会的) 孤立・孤独」「孤独・孤立」などの用語が使用されている。